

日本プロテオーム学会 2011 年会 (JHUPPO 第 8 回大会) 議事録

日時 : 平成 23 年 7 月 28 日 (木) 12 : 15 ~ 13 : 15

会場 : 朱鷺メッセ新潟コンベンションセンター 3 階小会議室 303 ・ 304

【報告事項】

1. 会員数

- 1) 個人会員 : 695 名 (前年比 +131) うち学生会員約 100 名
- 2) 法人会員 : 6 社 (前年比 +3 社)
 - ① 法人会員会費の改定 100,000 円から 50,000 円 / 口へ変更
 - ② 複数口加入可とした
- 3) 合計会員数 701
- 4) 年会参加人数
7/28 現在 350 名

2. HUPPO 活動報告 (中村先生)

- ① HUPPO2010 (2010 年 9 月 19 日 ~ 23 日 オーストラリア ・ シドニー)
 - 1) 参加者数 1260 名程 (うち日本人 70 名程)
- ② HUPPO 理事の選挙
 - 1) 現在、中村先生、山本先生が理事として活動している
 - 2) 新たに成松先生を推薦
 - 3) 「理事は会長または副会長でなければならない」という内規があるが、理事としてふさわしいということで今回成松先生を推薦するに至る
- ③ その他 :
 - 1) Human Proteome Project の始動が宣言された

3. HUPPO2013 (2013 年 9 月 14 日 ~ 18 日横浜開催)

- ① パシフィコ横浜にて開催

4. AOHUPPO : 中村先生が今年度より会長に就任

- ① 2002 年創立 具体的に活動している国 17 ヶ国
- ② 中国が非常にアクティブな活動をしている
- ③ 国によってレベルの差が大きく、今後 3 年間は教育 ・ 訓練などに力を入れていく予定。日本としてできることをやっていく
- ④ 2012 年は中国 ・ 北京で開催 (5 月 6 ・ 7 日予定)

5. HUPPO Initiative 活動報告

- ① 12 の Initiatives がスタート (うち日本から 2 つ)
 1. HGPI イニシアチブ : 成松先生

(ア) HUPO で HGPI のセッションを行い、外国人を 6 名ほど招聘している。

(イ) まずは解析の標準化を図ることを大きな目標としている。

① 細胞を各参加施設に送り解析を行なったところ、結果がバラバラだった。糖鎖の研究の標準化が必須と考えられる。

② 先生方も論文などで糖鎖の解析をもとに結論を導いているモノについてはあまり信用しないほうがいい。

2. HTTP イニシアチブ：山本先生

(ア) 他のイニシアチブで出たデータを比較し関係性を調べている

6. JHUPO Initiative 活動報告：西村先生

(ア) 日本初の Survey で JOP に公開している

(イ) 東北大学の海野先生の研究をまとめて報告する予定。

(ウ) 今後、国際的なコラボレーションをスウェーデン、タイ、台湾、韓国、日本を含む地域に拡大していく。

(エ) [平野先生より] 東北大学の海野先生は JHUPO の会員ではないので、この活動に含めるのであれば会員になっていただく必要がある。

7. HUMAN PROTEOM PROJECT について

(ア) 山本先生、中村先生、西村先生が参画。中村先生・西村先生は外国の研究施設と連携して研究を進めている。

(イ) 各国が分担して研究を行うが、予算がないため、出来る人がやるというスタンスになっている。

(ウ) 日本には予算が少ないためまとめられるものはまとめる（複数の施設で同じような研究を行なってもあまり意味はない）：マスタープランの策定が必要

(エ) 学術会議にプロテオジェノムネットワークとして申請し、昨年採択された。

(オ) プロテオミクスだけでなくゲノミクスも含めるという意見が出た。

8. 会議（JHUPO 第 8 回大会）

(ア) がん研究センター 山田哲司先生会長の元成功裏に終了

9. 広報活動（学会通信・ホームページ）

(ア) HUPO2013 の件で、今年 2 月に日本学術会議でのヒアリングが行われ、平野先生、谷口先生、朝長先生で出席してきた。

(イ) 学会通信 63 号まで配信済み

10. 日本ヒトプロテオーム学会研究開発功績賞の創設

(ア) メール理事会にて承認済み

11. 法人会員会費の変更

(ア) 前述のとおり、一口 100,000 円から 50,000 円に変更した

(イ) 複数口の入会可能とした

12. 日本ヒトプロテオーム学会賞、研究開発功績賞及び奨励賞受賞者

(ア) 日本ヒトプロテオーム学会賞：戸田先生より

① 学会賞について 5/18 に選考委員会を実施。平野先生、磯部先生、中尾先生、戸田先生で選

考。

② 2組、計4名の応募があったが1組はイニシアチブの色合いが濃かった。

③ 審議の結果、2名を採択：山田哲司先生、和田芳直先生

(イ) 日本ヒトプロテオーム学会 研究開発功績賞

① アステラス製薬株式会社が受賞

(ウ) 日本ヒトプロテオーム学会奨励賞

① 6件の応募、3件が受賞

13. KHUPO との交換講演

(ア) 2010年から交流事業を実施しており来年も実施予定である。

14. その他

(ア) 日本学術進行科学研究費補助金公募（和田先生より情報あり）：「オミクス計測科学」が時限科目として採択

① 100件以上／年の応募が3年以上継続することにより常設科目となりより大きな金額の研究費の申請が可能になる

② 若い研究者の応募を促進する。

③ 理事の施設からは5件以上の応募をする心意気で積極的な応募を各自推進する

④ 応募数が少なければ研究の重要性が認められないので、まずは数を増やすことが重要

(イ) HUPO2012 への若手研究者の参加費免除

① 震災の影響もあり、若手研究者の参加費が免除される。対象人数確認中

② 現在13名の応募があり、優先順位を付記しHUPOへ連絡済み

③ 別の情報として、既に登録している若手参加者には登録費を返金してくれるという話もあり、確認が必要である

(ウ) 理事の辞退

① 曾根純一先生

【審議事項】

1. 理事改選について

(ア) 2011年12月までに改選。会長（平野久先生）任期満了となり再選はない

① メールにて今後詳細を配信するが方法については、①会員3名の推薦を得た者を対象に②全体投票方式にて決定（二段階）

② 分野の偏りをなくすため、会長指名の理事の選出も検討していく

2. 平成22年度収支決算報告・平成23年度事業案及び予算案

(ア) 収支について

〔収入〕7,798,441円（うち繰越金650万円超）

〔支出〕671,883円

〔繰越金〕700万円超

① 繰越金の目的の可視化を図るべきではないか

1. HUPO2013の準備金として利用することも考えているが、HUPO2013自体はIndependent

な収支決算を行うことになっている

3. 平成 23 年度の活動
4. 平成 23 年度総会案
5. 2012 年会及び 2013 年会
 - (ア) 2012 年 (JHUPO 第 10 回大会) 東京にて開催
 - ① 大会長：東京農工大学 高橋信弘先生
 - ② 会場：科学未来館
 - ③ 規約により、大会長は常務理事でなければならないため、高橋先生の指名理事就任を即時承認。さらに 2 階級アップし、常務理事として就任していただく。
 - ④ 2012 年は JHUPO の年次大会の 10 周年となる記念の年である。韓国では前회가 10 周年で記念誌を作るなどを行っていた。日本でも何かやるかを検討していく必要がある。
 - (イ) 2013 年 (JHUPO 第 11 回大会) HUPO2013 と合同で横浜にて開催
 - ① 大会長：横浜市立大学 平野久先生
6. HUPO 会員増、JHUPO 会員増について
 - (ア) JHUPO 個人会員 450 名増
 - (イ) JHUPO 法人会員 3 社増
7. その他
 - (ア) 規約の第 1 条 「～学術集会の協賛などの事業」について
 - 【議論（上記収支との絡みもあり）】
 - ① 「学術会議は学会の事業として行う」ということは JHUPO の年会の収支を記載するべきではないか？
 1. 「協賛」とはどのような位置づけか。文言的に間際らしいかもしれないが、JHUPO の協賛で個々の年会在単独で行なっているという捉え方か。
 - ② 上記議論の繰越金について
 1. 生化学会も以前は同じ会計で行なっていたが現在は独立採算制を採っている。
 2. 準備金の貸出に利用し、いずれ独立採算方式を取るのはいかがでしょうか
 - ③ 地方講演会について（平野先生より）
 1. 年会在（今回は新潟で開催されたが）ほとんどが首都圏・大阪などの大都市で行われている。地方会員へのサービスの一環として、地方の研究促進のため、サポートを行なっていくことを検討している。例えば、10～20 名規模の研究会でもいいので、講師招聘費などのサポートを行うなど、方法はいろいろあると思われるので、引き続きメール理事会などで審議を継続したい。
 2. 講習会の企画などは良いのではないかなどについて、メール理事会にて審議を継続する。

以上